

指導活用技術

分類名〔病害虫〕

指21	オンシツコナジラミに対する殺虫剤5種の卵期処理による防除効果（追補）
-----	------------------------------------

宮城県農業・園芸総合研究所

要約

県北地域4地点から採取したオンシツコナジラミ個体群に対して殺虫剤5種の卵期処理による防除効果を検討したところ、クロチアニジン水溶剤、スピネトラム水和剤、ピリフルキナゾン水和剤に比較的高い効果が認められた。

〔 普及対象：トマト等生産者
普及想定地域：県内全域 〕

1 取り上げた理由

コナジラミ類は園芸作物の難防除害虫として知られている。近年、コナジラミ類の薬剤感受性の低下が全国的に問題となっており、有効であった薬剤でも殺虫効果が低下している事例がみられる。これまで、県南地域のオンシツコナジラミ個体群に関して一部の薬剤の感受性低下を確認し、普及に移す技術第95号とした。今回、県北地域の野菜生産ほ場から採取したオンシツコナジラミに対する薬剤感受性検定を実施したところ、その防除効果が明らかになったので指導活用技術とする。

2 指導活用技術

- (1) 採取地点によって防除効果に違いがあったが、クロチアニジン水溶剤、スピネトラム水和剤は全ての採取地点の個体群に対して高い効果が確認された（表1）。
- (2) ピリフルキナゾン水和剤はいずれの個体群に対しても中程度以上の防除効果が認められた（表1）。

表1 オンシツコナジラミの補正死虫率

IRAC コード	商品名	有効成分	成分量 (%)	希釈倍率	補正死虫率 (%)			
					A	B	C	D
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン	16.0	2,000	-	90.8	91.7	91.8
5	ディアナ水和剤	スピネトラム	11.7	2,500	-	97.0	93.2	94.7
9B	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン	20.0	4,000	-	85.1	79.2	87.2
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト	22.4	1,000	37.9	45.3	69.8	70.9
23	モベントフロアブル	スピロテトラマト	22.4	2,000	-	44.7	81.2	75.4
29	ウララDF水和剤	フロニカミド	10.0	2,000	47.7	57.9	74.3	80.1

「-」は調査対象としなかったことを示す。

3 利活用の留意点

- (1) 検定に供試したオンシツコナジラミ個体群は、県内イチゴほ場4地点（A:東松島市、B:石巻市、C、D:登米市）に由来する。
- (2) 本試験では卵期の生育ステージに対して薬剤処理を行い、8日後の生死で防除効果を判定した。
- (3) 防除効果は、補正死虫率が90%以上を「高い」、70%以上を「中程度」、70%未満を「低い」とした。

指導活用技術21 オンシツコナジラミに対する殺虫剤5種の卵期処理による防除効果（追補）

- (4) スピロテトラマト水和剤の作用機作は「脂質生合成阻害」であり、効果発現が遅効的であることが知られている。
 - (5) 効果に関わらず、さらなる感受性の低下を避けるため、同一系統の薬剤の連用は控える。
 - (6) 薬剤を使用する際は、最新の農薬登録情報を確認する（独立行政法人農林水産消費安全技術センタートップページ<http://www.famic.go.jp/>）。
- （問い合わせ先：宮城県農業・園芸総合研究所園芸環境部 電話022-383-8133）

4 背景となった主要な試験研究の概要

- (1) 試験研究課題名及び研究期間
農作物有害動植物発生予察事業（令和2年度）
- (2) 参考データ
なし
- (3) 発表論文等
 - イ 関連する普及に移す技術
微生物殺虫剤プリファード水和剤による野菜類のオンシツコナジラミの防除（第79号参考資料）
微小害虫類およびうどんこ病に対する気門封鎖型薬剤の防除効果（第82号参考資料）
オンシツコナジラミに対する殺虫剤6種の卵期処理による防除効果（第95号参考資料）
 - ロ その他
なし
- (4) 共同研究機関
なし